

E S T 担当者会議の実施概要

環境省では、E S T (Environmentally Sustainable Transport) を全国に更に普及させるため、例年行っているE S T 普及推進フォーラムに代わり、E S T 担当者会議を実施した。

E S T 担当者会議は、平成20年度における環境省支援13地域の取組みを紹介いただくと共に、学識経験者による講演等を行い、E S T 取組内容の共有化を図り、全国へのさらなる普及を目指すものである。



図 会議開催風景

日時 : 平成21年2月9日(月) 13:00~15:00
会場 : 弘済会館
事務局 : 環境省 水・大気環境局 自動車環境対策課
(株)日本能率協会総合研究所

E S T 担当者間での情報共有

E S T 担当者会議では、E S T に取り組んでいる自治体、ならびにこれから取組もうとしている自治体間で情報共有が出来るよう、13地域の担当者の方に協力いただき、各地域での取組み内容、問題・課題に関する資料作成を行った。

また、問題・課題に対しては、自治体担当者に対応策に関する事例やアイデアを募った。

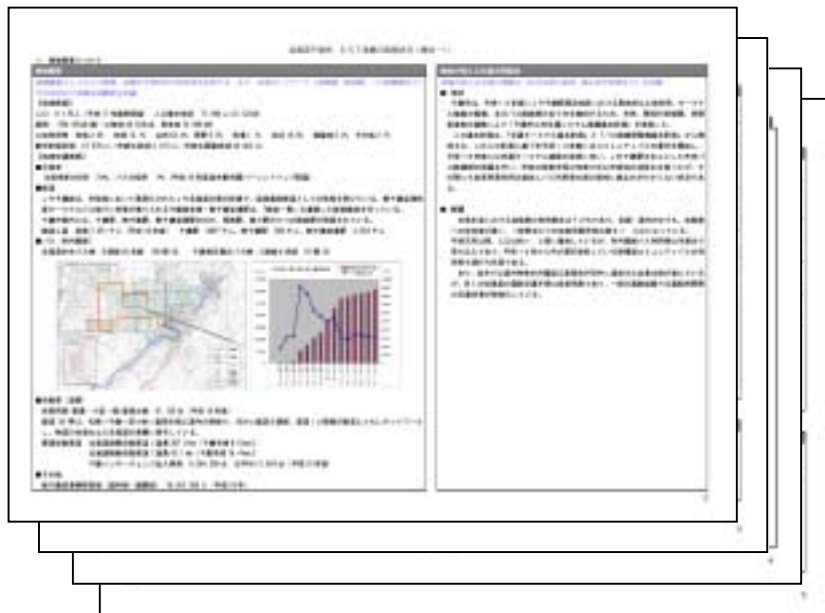


図 各地域のE S Tの実施状況



図 課題と対応策に関する事例やアイデア

開会・挨拶・講演

開会、環境省からの挨拶のあと、名古屋大学大学院 加藤博和准教授から、「日本におけるE S T普及に向けた課題」と題し、日本におけるE S T事業の問題点等について、ご講演いただいた。

挨拶

環境省水・大気環境局 自動車環境対策課課長 内藤克彦

講演「日本におけるE S T普及に向けた課題

- 「E S T 40年計画」をどう進めるか? - 」

名古屋大学大学院 加藤博和准教授



E S T モデル事業地域代表事例の報告等

E S T モデル事業地域の代表事例として、青森県八戸市、静岡県静岡市、兵庫県神戸市の取り組みについて、事例を報告していただいた。

発表について、出席者からの質疑応答を行うとともに、加藤博和名古屋大学大学院准教授より発表内容に関する総括をいただいた後、事務局より事前に各地域担当者の方から募ったE S Tの普及・推進を図る際の課題や、その課題に対する解決策について、紹介を行い、情報共有を図った。

代表事例報告

「八戸市におけるE S Tモデル事業とその“向こう側”」

青森県八戸市都市整備部都市政策課 鈴木氏

「静岡市E S Tモデル事業」

静岡県静岡市都市局都市計画部交通政策課 柴山氏

「MMを活用した公共交通利用促進について」

神戸市交通局営業推進課 菅野氏

八戸駅線共同運行化プロジェクト
「競合」から「共生」へ

Before (H19)
 ・各事業者がバラバラに系統ダイヤを編成
 ・平日228本の運行本数

After (H20)
 ・2社2経路のダイヤを平準化(10分間隔のヘッドダイヤに)
 ・平日182本(▲46本)に

利便性を高めつつ、仕業的にも環境的にも“reduce”

静岡市における環境的に持続可能な交通(E S T)モデル事業

計画の目的
 ・持続可能な社会の実現に向けた持続可能な交通・環境政策の推進
 ・基本方針：人を中心とした、自然環境への負荷の少ない移動の促進

実施方針
 ・公共交通の充実、公共交通の利便性の向上、公共交通の普及の促進
 ・公共交通の利便性の向上、公共交通の普及の促進

交通政策の推進
 ・公共交通の利便性の向上、公共交通の普及の促進

交通政策の推進
 ・公共交通の利便性の向上、公共交通の普及の促進

【平成20年度】
神戸市MM推進委員会の検討項目

E S Tモデル地域に認定(14年12月) → 18年度の事業(省エネエネルギー設備の設置)

21年度の事業計画 → 神戸市(国)からの支援

推進委員会(推進委員会)
 ・エコファクトリー制度等
 ・省エネ設備の導入等

推進委員会(推進委員会)
 ・エコファクトリー制度等
 ・省エネ設備の導入等